

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1472101235
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会
事業所名	グループホーム クロスハート二階堂・鎌倉
訪問調査日	平成20年11月12日
評価確定日	平成20年12月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1472101235
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会
事業所名	グループホーム クロスハート二階堂・鎌倉
所在地	248-0002 鎌倉市二階堂267-67 (電話) 0467-61-3345

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年11月12日	評価確定日	平成20年12月27日

## 【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和・ <b>平</b> 17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	15 人	常勤 4 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 11.4 人	

## (2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	82,000 円	その他の経費(月額)	59,000 円	
敷金	有( 円)	<b>無</b>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<b>有</b> ( 1,160,000 円)	有りの場合 償却の有無	<b>有</b> /無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	14 名	男性	2 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79 歳	最低 63 歳	最高 94 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	公田クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの経営母体は社会福祉法人伸こう福祉会であり、伸こう福祉会は関連従業員300名余の大きな組織でグループホーム7つの他、特養、ケアセンター等を持ち、確たるポリシーを持ってケアを展開している。法人理念は「全てのよきものを人生の先輩たちにささぐ」と云う崇高なポリシーを持ち、グループとして一貫している。そのポリシーはホームに根付いている。また基本方針が「おしゃれに、おいしく、おつきあい」であり、靴を履いたままの、ハイセンスなインテリアの生活である。副理事長のホームのポリシー、ホーム生活への信念とこだわりがホームの全体を包んでいる。ロケーションはJR鎌倉駅からバスで10分、大塔宮終点から歩いて10分古都鎌倉の高級で静かな住宅地の中にある。障害児のためのプログラムMOVEをグループ内の特養で取り入れ、今回グループホームに展開することとなり、7つのグループホームのうち3つで展開してみることで、こどもも選ばれた。日常がリハビリとの考え方から、日常の動きで補助を1つ加えることで目標の動作を可能にするプログラムであり、これの活用で生活に幅が生まれより楽しい生活が達成できることを望んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長と職員の一部交代があり、ホーム内の把握も含めて重複していた整理統合、マニュアル類の充実、新体制固めと職員のレベルアップに取り組んだ。職員については介護力のアップを狙い外部研修、法人内研修に毎月計画的に出すプログラムを実施し、書類整理の核として前述のMOVEを取り入れたケア方式の採用と実施を据えた。MOVEはまだ日本で採用しているところは少ないが海外では研究が進んでいると云われる。これにより職員のレベルアップ、スキルアップが図れればと期待している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については基本的には各ユニットでユニット長を中心にまとめ、それをホーム長が中心となって各ユニットと一緒にまとめた。評価の必要性についてはカンファレンスで十分に説明し、理解をさせ、プロセスでの気付きや評価の指摘事項については改善計画を立てて実施して行く予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は介護保険法が改訂された平成18年から継続的に開催している。メンバーは自治会長、民生委員(2名)、鎌倉市職員、ご家族(2名)それにホーム関係者、伸こう福祉会本部の代表で行っている。鎌倉市は協力的で、開始当初より同じ係長さんが継続して出席してくれており、ご指導を頂いている。自治会の関係でも会長さんが協力的であり、バザー、回覧板の回覧、共同募金など一緒にして頂いている。民生委員の方も協力的であり、そのご紹介でフラワーセラピーへ地元の方の参加を橋渡ししてくれるなど地域密着に協力していただいている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は良く来訪される。毎月の定期的なお便りや来訪時にご利用者の近況をお話し、情報の共有化に努めている。ご家族に対しては安心して頂ける介護、帰るとき後ろ髪を引かれないような介護に努め評価して頂いている。初期からの入居者のご家族には運営推進会議へのご出席とご家族の中心的存在としてご協力頂いている。クリスマス、お花見、お食事会などはご家族と一緒に楽しむようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の関係では会員の1員として認めて頂き、会長さんはじめ良くして頂いている。ボランティアでは毎月の傾聴の方の他、フラダンスは年数回来て頂いている。フラワーセラピーの方は7名位で2ヶ月に1回は見えて頂き、近所の方の見学・参加もある。法人は傘下に保育園もっている。子どもが来ると入居者の皆さんは喜ぶので子どもとの交流を考えて行くことにしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「おしゃれに・おいしく・おつきあい」と常に肝に銘じて日々の業務に取り組んでいる。地域・自治会の関係でも会長さんが協力的であり、バザー、回覧板の回覧、共同募金など一緒にして頂き、地域密着も徐々に進んでいる。	○	ミーティングなどで理念の説明を行って行きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常勤スタッフは新人研修で理念を把握しているが、非常勤スタッフに関しては各ホームで管理者が指導にあたっている。今後も新人の非常勤スタッフに関しては十分に時間をかけて指導にあたっていく。		今後も継続し実施して行きたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており回覧板で行事などお誘いがある。共同募金の寄付や大塔宮のバザーやお祭りにも参加した。		今後も継続し実施して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングや入職時に自己評価を読んでもらって説明と周知を行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバー、自治会長、民生委員、鎌倉市職員、ご家族、ホーム職員、本部代表で時々の問題への取り組み話し合っている。鎌倉市は協力的で、開始当初より同じ係長さんが継続して出席してくれ、自治会も会長さんが協力的であり、バザー、回覧板の回覧、共同募金など一緒にして頂いている。民生委員の方も協力的で、そのご紹介でフラワーセラピーへ地元の方の参加を橋渡ししてくれるなど地域密着に協力していただいている。	○	今後も継続し実施して行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鎌倉市の方は毎回運営推進会議に出席頂いている。また、鎌倉市グループホーム連絡会も設立され出席している。		今後はさらに近隣の力になれるような地域密着型のホームにして行きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月定期的にご様子や金銭管理(領収書請求書を含む)等のお便り郵送している。変化のあるときは当然その都度電話やメールの連絡をしている。来訪時にはご利用者の近況をお話し、情報の共有化に努めている。		今後も継続し実施して行きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書と玄関に「苦情担当者」の掲示をおこなっている。また、ご家族様が来訪時は何か不安なことがないか伺っている。		今後も継続し実施して行きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員の移動は現場の状況を把握し、法人本部で決定している。非常勤スタッフは管理者が任されているので、出来る限り退職者を出さないよう努力している。チームケアに徹し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○	職員の顔ぶれが変わるとご利用者様不穏になることもあるので、今後も十分に配慮を行って行きたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤職員は実践者研修に順次参加している。法人内でも研修を行っているので参加している。外部研修に関しては、今年度の実行計画書にも記載してあるので月に1~2名は参加出来るよう努めている。		研修はスタッフにとって勉強なるがとてもよい刺激にもなるので、今後も継続して実践して行きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所から必要に応じ、家族の要望でヘルパーの派遣をしてもらっている。何かの時にはお互い協力できるような体制で交流している。グループホーム連絡会で情報交換を行っている。		今後も継続し実施して行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居時には特に気を使い、共同部分での座る場所や二階堂での1日の話をしている。その方が何が一番安寧なのかを見極め、スタッフに指導を行っている。クロスハートで経営している各種福祉施設や地域の介護事業所との連携を心がけている。		今後も継続し実施して行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人が喜ばれること又嫌がられることなど(その方)を理解するため様々な知恵を使い努力する。自分を受け入れていただけるか信頼関係がしっかり築けるよう努めている。	○	「もし自分をご利用者の立場だったら？」を念頭において良い関係を築いて行きたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えの少ない方が多いので、個別で日々の生活リズムを把握し職員はなるべく本人の希望に添える様支援を行っている。出来るだけ自然な会話で本当の思いや希望を聞きだせるよう努めている。対話の中から把握しようと努めている。時間があれば個々のファイルに目を通して		今後も継続し実施して行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントやミーティングでの意見交換、本人家族の意向を取り入れたケアプランを作成している。障害児のためのプログラムMOVEをグループ内の特養で取り入れ、今回グループホームに展開することとなり、7つのグループホームのうち3つで展開してみることとなり、ここも選ばれた。日常がリハビリとの考えから、日常の動きで補助を1つ加えることで目標の動作を可能にするプログラムであり、これの活用で生活に幅が生まれより楽しい生活が達成できることを望んでいる。	○	MOVEをグループホームに展開し日常がリハビリとの考え方を推進して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化の際は現状に即したケアプランを関係者と相談した上で作成して同意・捺印いただいている。場合によっては介護度区分変更の申請も行っている。		今後も継続し実施して行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様の訪問や入居者様とご家族様が一緒に外出されるのに特に制限がない。夜にしかいられないご家族様にも対応を行っている。ロスハートで経営している各種福祉施設や地域の介護事業所との連携を心がけている。		今後も継続し実施して行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは訪問看護ステーションを通して24時間連絡がとれる体制になっている。緊急時は医師の指示で救急対応を行なっている。医療連携体制を取っている。		今後も継続し実施して行きたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化についての文面が重要事項説明書に記載されて双方で確認を行なっている。重度化に向けて関係者と速雄段階から良く話し合いを重ねる必要がありケースバイケースで方針を決めている	○	ホームとして出来る範囲、あるいは出来ない範囲を明文化して行きたいと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の尊厳を傷つけるような馴れ馴れしい声かけはおこなっていない。記録等もプライバシーに配慮した記載やその取り扱いに気をつけている。		今後も継続し実施して行きたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望に添うことは難しいが、出来る限りその方に合わせて時を過せるように努力している。	○	出来る限り希望に沿ったお手伝いをして行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲内で食事の片付けなどスタッフと行なっている。盛り付け彩にも配慮して楽しい時間となるよう心がけている。		今後も継続し実施して行きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表を作成してご本人の意思確認を行なって週2回、入浴を楽しめるよう声かけしている。意思確認できない方に関しては体調を考えながら行なっている。		今後も継続し実施していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方にあわせて掃除や後片付け、散歩、買物、外食、フラワーアレンジメントを行いケアプランで実施している。		今後は更にアセスメントの充実を図り、今まで見えなかった支援方法をスタッフ全員で見つけて行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日散歩を含め外出に同行して頂いている。外出前にはご本人の意思確認を行なって、決して無理にはお誘いしていない。		今後も継続し実施して行く。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	クロスハートは山に囲まれた住宅地内にあり道に迷ったら大変危険である。A棟には帰宅願望で門を開けようとする方もいらっしゃる。防犯上の心配もありご家族様の了解を得て門は電子鍵になっている	○	非常時には警報ベルを取り付けて鍵をかけない工夫も試している。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の方に消防s訓練に参加頂いたり、運営推進会議でも自治会長、民生委員の方に協力をお願いしている。	○	今後は地域全体の防災活動に参加して行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時残摂取量を記録している。禁食のある人へは個別メニュー、嚥下困難への人へはミキサー食を手作りしている。食事時間は出来るだけ個別に対応できるようにしている。		今後も継続し実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節の花や写真を飾って潤いのある空間を演出している。落ち着く空間でご入居者様やスタッフも穏やかに生活できている。		今後も継続し実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年慣れ親しんだ家具や思い出深い品々を配置する事によって落ち着いた安心感のある生活空間を、ご家族様の協力も得て実施している。		今後も継続し実施して行く。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	クロスハート二階堂・鎌倉
(ユニット名)	A棟
所在地 (県・市町村名)	鎌倉市二階堂267-67
記入者名 (管理者)	堀部 礼子
記入日	平成 20年 11月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「おしゃれに・おいしく・おつきあい」と常に肝に銘じて日々の業務に取り組んでいる。	○	ミーティングなどで理念の説明を行って生きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常勤スタッフは新人研修で理念を把握しているが、非常勤スタッフに関しては研修の場がないので、各ホームで管理者が指導にあっている。	○	新人の非常勤スタッフに関しては十分に時間をかけて指導にあたって行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族様には、入居前の説明や毎月のお便りの中でお知らせしているが、地域の方には運営推進会議で経営理念を説明した。	○	近隣の方には説明する機会がないので、見学などに来て頂き、説明を行って行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	菊花展入賞作品を玄関前に展示して作品を鑑賞して頂けるようご近所にチラシをお配りお誘いしました。	○	ご利用者様との散歩中の出会いでは笑顔で挨拶をおこなっています。今後も継続を実施して行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており回覧板で行事などお誘いがある。共同募金の寄付や大塔宮のバザーやお祭りにも参加した。	○	今後も継続し実施して行きたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員の方を通じたり、お散歩で会った方にお話をしてホームとして何か出来る事はないか話を行っている。	○	次の方の入居にもつながる可能性があるので、今後も積極的に継続して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングや入植時に自己評価を呼んでもらって説明を行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバー、自治会長、民生委員、鎌倉市職員、ご家族、ホーム職員、本部代表、で時々、の議題への取り組み話し合っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鎌倉市の方は毎回運営推進会議に出席頂いている。また、鎌倉市グループホーム連絡会も設立され出席している。	○	今後はさらに近隣の力になれるような地域密着型のホームにして行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は実務従事者基礎研修を受講して学んでいる。	○	今後は実践者研修に出来る限りスタッフを参加させて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で説明を行っている。管理者はスタッフ一人一人の業務に十分に注意を払って見守っている。	○	あつてはならないことと心して防止に努める介護者側の都合で安易に柵、鍵、など使用してはならないが安全との間で迷うこともあるのも事実。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご見学者やご入居予定者のご家族様とは不明な点がないか、電話や見学で十分に説明を行っている。また、入居後も疑問があれば気軽に話していただけるよう努めている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様は直接訴えてくださる事が少ない為、何か変化があったときは管理者に報告するようスタッフに指導している。	○	出来るだけ本音(心の内)を聞き出せるよう努力している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的にご様子や金銭管理(領収書請求書を含む)等のお便り郵送している。変化のあるときは当然その都度電話やメールの連絡をしている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書と玄関に「苦情担当者」の掲示をおこなっている。また、ご家族様が来訪時は何か不安なことがないか伺っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は随時管理者は聴くように心がけている。また、ミーティングでは話しやすいのでいろいろな意見交換も行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	重度化によって人員配置や勤務時間帯の変更を柔軟に行っている。	○	常にご状態に変化があるの。特に新しいご入居者様が入られると皆様も不穏になるので、今後も柔軟に対応を行っていききたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員の移動は現場の状況を把握し、法人本部で決定している。非常勤スタッフは管理者が任されているので、出来る限り退職者を出さないよう努力している。	○	職員の顔ぶれが変わるとご利用者様不穏になることもあるので、今後も十分に配慮を行って行きたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
○職員を育てる取り組み		常勤職員は定時研修(順次参加)を行い、法人本部研修		

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤職員は実践者研修に順次参加している。法人内でも研修を行っているので参加している。外部研修に関しては、今年度の実行計画書にも記載してあるので月に1~2名は参加出来るよう努めている。	○	研修はスタッフにとって勉強なるがとてもよい刺激にもなるので、今後も継続して実践して行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所からヘルパーの派遣をしてもらっている。何かの時にはお互い協力できるような体制で交流している。	○	グループホーム連絡会で情報交換を行っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常勤職員に関してはリフレッシュ休暇制度がある。他のスタッフに関しては個々に何か悩みはないか、不安はないか、管理者が聞くように時間を作っている。	○	ミーティングの中で報告する事によってストレスが半減する場合もある。今後も継続しておこなって行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月の3週目にグループホーム会議があり、4週目には全社会議があり、そこで状況を伝える事ができる。	○	個々のスタッフに関しては努力や実績を定期的に評価して行きたい。

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話だけではなく見学やご自宅・入院先にまで伺い、納得されるまで説明を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話やご見学時、いろいろと話をして下さる事が多い。また、こちらからも質問等で話しやすい状況を作っている。	○	何かあつ時は時間を作って頂き、話をしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ゆっくり話が出来るようにじかんを取り、何が一番良いかスタッフも一緒に考えている。	○	ご入居者様、ご家族様にこまめに声かけを行って一緒に考える時間を増やして行く。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居寺には特に気を使い、共同部分での座る場所や二階堂での1日の話をしている。その方が何が一番安寧なのかを見極め、スタッフに指導を行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人が喜ばれること又嫌がられることなど(その方)を理解するため様々な知恵を使い努力する。自分を受け入れていただけるか信頼関係がしっかり築けるよう努めている。	○	「もし自分をご利用者の立場だったら？」を念頭において良い関係を築いて行きやい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来ることは行って頂き、出来ないことは出来る限りして頂く。ご本人の好きな事、喜ばれる事を見つけ共に喜びを感じている。日常の会話から人生の先輩としての教訓を頂ける機会も多い。	○	ご利用者ご家族がこの施設で生活できて(安心)と思って頂けるように暖かく優しい心をもって接して行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様が来訪時にお話をしたり、急なときは電話で相談を行っている。	○	今後もご家族が来訪されたときはゆったりと話しが出来るよう配慮したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の記憶やご家族様からの聞き取りから行きたい場所や会いたい方を伺えるよう勤めている。	○	ご本人が行きたい所へ連れていってさしあげたいので、今後は人員を調整して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士の関係を把握し、食事やお茶の時間に遠慮なくくつろげる様な席の配置を考えている。職員が適所に入りコミュニケーションのバックアップに努めている外出時など参加メンバーも気が合う同士をなるべくまとめてお誘いしている。	○	散歩、行事等揃って参加できることを考えていく。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節の挨拶の手紙のやりとりや、毎年行われる追悼ミサのお知らせをお出ししている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えの少ない方が多いので、個別で日々の生活リズムを把握し職員はなるべく本人の希望に添える様支援を行っている。出来るだけ自然な会話で本当の思いや希望を聞きだせるよう努めている。	○	対話の中から把握しようと努めている。時間があれば個々のファイルに目を通してている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントではなるべく詳しくそれまでの生活歴を本人や家族にも伺っている。その後もご家族様来訪時などに、こちらからのホームの内容での情報も提供し相互にエピソードを語れるような関係を築く努力をしている。	○	ターミナルケアの際は、往診医師、訪問看護ステーションも含めてご家族様と相談を行っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	重度の方が多くので日常の言動を良く観察して小さなことでもすぐに感じられる様努めている。(ADL・悩み・困っている事・嬉しいことなど)	○	今後も継続し実施して行きたい。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントやミーティングでの意見交換、本人家族の意向を取り入れたケアプランを作成している。	○	チーム全員でケアプラン作成に携わっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化の際は現状に即したケアプランを関係者と相談した上で作成して同意・捺印いただいている。場合によっては介護度区分変更の申請も行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「生活に記録」や「ケアノート」「連絡ノート」に気づいた事、伝えなければいけないことなど、各スタッフが記録を行い情報を共有し、参考にしている。	○	スタッフは記録を読み、ご入居者様の変化に対応して行きたい。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様の訪問や入居者様とご家族様が一緒に外出されるのに特に制限がない。夜にしかいられないご家族様にも対応を行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お話し相手の方のボランティア3名の方が各方面から定期的に訪問くださっている。また、第三者機関の方の訪問もある。その他地元のハワイアンバンドやフラワーセラピーなどの訪問も楽しみにして下さっている。消防署の協力も得て避難訓練を行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居問い合わせの電話の際に一度見学に来て下さるようお願いしている。また、グループホーム連絡会での他のホームの方との交流がある。		是非、お互い見学し交流を図って行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ協働はしていないが空室状況は情報交換をしている。	○	是非、お互い見学し交流を図って行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは訪問看護ステーションを通して24時間連絡がとれる体制になっている。緊急時は医師の指示で救急対応を行なっている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医が2週間に1回往診、個別に利用者との対話の中から診断、スタッフに支援の方法など指示をして下さる。	○	今後も継続し実施して行きたい。
	○看護職との協働			



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	重度の方が多いため、スタッフでは把握できない小さなことでも訪問看護師が週1回利用者の全身の健康チェックと処置を行い申し送りして下さる。対応に悩んだ時などスタッフに適切なアドバイスを指示して下さる。	○	今後も継続し実施して行きたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中はこまめにお見舞いに伺い、病院のソーシャルワーカー、ご家族様と密に連絡をとって退院に向けての事前準備に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化についての文面が重要事項説明書に記載されて双方で確認を行なっている。重度化に向けて関係者と速達段階から良く話し合いを重ねる必要がありケースバイケースで方針を決めている	○	ホームとして出来る範囲、あるいは出来ない範囲を明文化して行きたいと考えている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ること、出来ないことを説明し納得頂く。ご家族様のご要望をしっかりと受け止めホームとして出来る事を最善を尽くして介護支援サービスを行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームとしてはなるべく住み替えないで過ごして頂きたいと思っている。しかしどうしても転居の場合スムーズに行なえる様、ホームとして転居先へ最善の情報提供を行なう。	○	今後も継続し実施して行きたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の尊厳を傷つけるような馴れ馴れしい声かけはおこなっていない。記録等もプライバシーに配慮した記載やその取り扱いに気がつかっている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	重度の方は特に日々ご状態に変化があるので、その時に最善に対応できるよう対応している。	○	今後も継続し実施して行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望に添うことは難しいが、出来る限りその方に合わせて時を過せるように努力している。	○	出来る限り希望に沿ったお手伝いをして行きたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者のご希望に添って理容室・美容室に連絡をとり送迎を行い満足して頂いている。出かけられない方に関しては訪問美容・理容を活用している。	○	今後も継続し実施して行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲内で食事の片付けなどスタッフと行っている。盛り付け彩にも配慮して楽しい時間となるよう心がけている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人別メニューは出来ないが、全体的には個人の好みに合わせた献立を立てている。盛り付けや彩にも配慮し楽しい時間となるよう心がけている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来る限りその人の意思を尊重している。排泄の自立を高めるような支援をしている。また、排泄チェック表に記入し個々の排泄リズムを把握している。	○	自立の方の排泄状況がなかなか確認できないので、ご本人に確認開いたり、居室のトイレの音や掃除で把握を行って行きたい。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表を作成してご本人の意思確認を行なって週2回、入浴を楽しめるよう声かけしている。意思確認できない方に関しては体調を考えながら行なっている。	○	今後も継続し実施していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠用の道具や週間等に各人に合わせてリラックス出来るよう就寝いただいている。	○	今後も継続し実施していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方にあわせて掃除や後片付け、散歩、買物、外食、フラワーアレンジメントを行いケアプランで実施している。	○	今後はアセスメントを充実させいろいろと今まで見えなかった支援方法をスタッフ全員で見つけたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが自分でお小遣いをお持ちの方がいらっしゃる。外出時など好みに応じておやつやお土産購入をすることによって生活にはりを与えて頂いている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日散歩を含め外出に同行して頂いている。外出前にはご本人の意思確認を行なって、決して無理にはお誘いしていない。	○	今後も継続し実施して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様との外出はされているがご利用者様によっては、たADLや体調を考えると無理な事が出てきた。	×	車椅子の方が多いが陽気がよく体調の良い日には個別外出を検討していきたい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A棟にはご自分から電話や手紙を出される方がいらっしゃらない。	×	
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様が来訪された時、季節により冷茶・温茶をお出迎えしてゆったりとお話できるよう配慮をおこなっている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重度化が進み転倒の高いご入居者様が多い。見守りやセンサーマット、呼びベルで対応を行なっている。	○	職員の介護技術や意識を高めていく研修や勉強会を行って行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	クロスハートは山に囲まれた住宅地内にあり道に迷ったら大変危険である。A棟には帰宅願望で門を開けようとする方もいらっしゃる。防犯上の心配もありご家族様の了解を得て門は電子鍵になっている	○	非常時には警報ベルを取り付けて鍵をかけない工夫も試している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間と居室にいらっしゃる時は、30分～60分毎に方室し安全確認を行なっている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具などは本人の要望時にすぐに出せるように事務所で預かっている。はさみなどを保持している方はその保管場所をチェックをしている。	○	ご本人のプライドを傷つけないような声かけによって保管させてもらっている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人の外部、内部の研修に参加したり、往診医・訪問看護師にも指導を受けている。また、消防訓練時、消防隊員の方にも指導を受けている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訪問看護師より個別指導を受けているが応急手当ができる職員は少ないと思われる。	○	研修として応急処置や救急対応の勉強会を定期的に行って行きたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の方に消防s訓練に参加頂いたり、運営推進会議でも自治会長、民生委員の方に協力をお願いしている。	○	地域全体の防災活動に参加して行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態の変化に伴い医療処置や転倒などのリスクがある事を説明し同意を得るように努力をしている。入居時も文章にて説明・同意・捺印を得ている。	○	今後も継続し実施していきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変を感じた際には、直ぐにバイタルチェックを行いホーム長、訪問看護ステーションに報告し、指示を受けている。	○	今後も継続し実施していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医、訪問看護の指導も有り、薬の勉強を行なっている。確実に飲み込まれるまで見守り、介助を行なっている。	○	スタッフ全員がご入居者様が服薬されている薬の内容を理解できるよう努めていきたいです。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要な利用者には排泄表で記録をつけている。便秘を防ぐ為に日頃より水分・乳製品・食物繊維の豊富な食材を心がけている。便秘時には、腹部マッサージなどを実施。それでもなお便秘が解消されなければ主治医の指示により整腸剤や下剤、坐薬を使用している。	○	オムツを使用されている方でも出来る限りトイレで排泄頂けるよう、介助を行ないたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ご自分で出来る方は声かけや見守りで行なって頂き、出来ない方に関してはスタッフが誘導し行なっている。また、週1回往診で歯科訪問がある。	○	今後も継続し実施していきたい。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時残摂取量を記録している。禁食のある人へは個別メニュー、嚥下困難への人へはミキサー食を手作りしている。食事時間は出来るだけ個別に対応できるようにしている。	○	今後も継続し実施して行く。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ご入居者様、職員が毎年インフルエンザの予防接種を受けている。日頃より気をつけて手洗い・うがいを行なっている。外出後は特に木を使っている。	○	今後も継続し実施していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	必ず手洗いし、食材の賞味期限の確認、調理器具等の消毒を行い衛生管理に気をつけている。	○	今後も継続し実施して行く。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内の植木の手入れは定期的に地元の専門家へ依頼している。近隣の要望にもなるべく応じトラブル回避に努めている。玄関周りの鉢植えや玄関内の生花もご来訪者、ご入居者様に好評である。	○	未だ反対ののぼり旗があるが周辺を少しでも心地よい空間に変えていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節の花や写真を飾って潤いのある空間を演出している。落ち着く空間でご入居者様やスタッフも穏やかに生活できている。	○	今後も継続し実施して行く。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングが離れており、気のあった方どおしでお話をされている。参加されない方は居室や他のソファで寛いでいらっしゃる。	○	気の合わない方もいらっしゃるので、出来る限りスタッフが間に入り橋渡しを行なって行く。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年慣れ親しんだ家具や思い出深い品々を配置する事によって落ち着いた安心感のある生活空間を、ご家族様の協力も得て実施している。	○	今後も継続し実施して行く。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎日1必ず1度は喚起を行なう。冷房を設置できたことにより高齢のご入居者様に必要な温度管理が実現できている。</p>	○	<p>これから寒い時期になるが今まで使用できていた床暖房が騒音の問題で使用不可となってしまった。温風ヒーターなどで対応して行きたい。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室にトイレと洗面所が備わっているので安心感がある。また、共有部分に手すりが少ないので、個々に合った杖や歩行器を用いて活動されている。</p>	○	<p>今後も継続して実施して行きたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>個別対応で混乱を防ぐ努力をしている。カレンダーや新聞で日付を確認したり写真で記憶を記録したり必要な手助けで自立支援を行なっている。</p>	○	<p>職員側のリズムにならない様心がけて行きたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外回りの植栽の手入れは専門家に依頼し、テラスではプランターで花や野菜を職員・ご入居者様と一緒に育てて共感している。</p>	○	<p>テラスの活用で四季の花育み季節の旬な野菜を収穫し生活に意欲がさらに向上するように支援していきたい。</p>

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

居室には使い慣れた家具や生活用品を持ち込む事で安心感がある。ご入居者様の「できること・でいそうなこと」は先に介助せず見守ったり、一緒に行なうようにしている。A棟は重度の方が多いので 咀嚼や嚥下困難など身体機能や排泄状態などお一人お一人の健康状態に合わせた調理や盛り付けの工夫を行なっている。体調の変化で皆様と食事時間がずれたり、食事の内容を変更している。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	クロスハート二階堂・鎌倉
(ユニット名)	B棟
所在地 (県・市町村名)	鎌倉市二階堂267-67
記入者名 (管理者)	堀部 礼子
記入日	平成 20年 11月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	ミーティングなどで理念の説明を行って生きたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	新人の非常勤スタッフに関しては十分に時間をかけて指導にあたって行きたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	近隣の方には説明する機会がないので、見学などに来て頂き、説明を行って行きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	ご利用者様との散歩中の出会いでは笑顔で挨拶をおこなっています。今後も継続を実施して行きたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後も継続し実施して行きたい。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員の方を通じたり、お散歩で会った方にお話をし てホームとして何か出来る事はないか話を行っている。	○	次の方の入居にもつながる可能性があるので、今後も積極的に継続して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングや入植時に自己評価を呼んでもらって説明を行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバー、自治会長、民生委員、鎌倉市職員、ご家族、ホーム職員、本部代表、で時々 の課題への取り組み話し合っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鎌倉市の方は毎回運営推進会議に出席頂いている。また、鎌倉市グループホーム連絡会も設立され出席している。	○	今後はさらに近隣の力になれるような地域密着型のホームにして行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は実務従事者基礎研修を受講して学んでいる。	○	今後は実践者研修に出来る限りスタッフを参加させて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で説明を行っている。管理者はスタッフ一人一人の業務に十分に注意を払って見守っている。	○	あつてはならないことと心して防止に努める介護者側の都合で安易に柵、鍵、など使用してはならないが安全との間で迷うこともあるのも事実。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご見学者やご入居予定者のご家族様とは不明な点がないか、電話や見学で十分に説明を行っている。また、入居後も疑問があれば気軽に話していただけるよう努めている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様は直接訴えてくださる事が少ない為、何か変化があったときは管理者に報告するようスタッフに指導している。	○	出来るだけ本音(心の内)を聞き出せるよう努力している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的にご様子や金銭管理(領収書請求書を含む)等のお便り郵送している。変化のあるときは当然その都度電話やメールの連絡をしている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書と玄関に「苦情担当者」の掲示をおこなっている。また、ご家族様が来訪時は何か不安なことがないか伺っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は随時管理者は聴くように心がけている。また、ミーティングでは話しやすいのでいろいろな意見交換も行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	重度化によって人員配置や勤務時間帯の変更を柔軟に行っている。	○	常にご状態に変化があるの。特に新しいご入居者様が入られると皆様も不穏になるので、今後も柔軟に対応を行って行きたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員の移動は現場の状況を把握し、法人本部で決定している。非常勤スタッフは管理者が任されているので、出来る限り退職者を出さないよう努力している。	○	職員の顔ぶれが変わるとご利用者様不穏になることもあるので、今後も十分に配慮を行って行きたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
○職員を育てる取り組み		常勤職員は定時研修(順次参加)を行い、法人本部研修		

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤職員は実践者研修に順次参加している。法人内でも研修を行っているので参加している。外部研修に関しては、今年度の実行計画書にも記載してあるので月に1～2名は参加出来るよう努めている。	○	研修はスタッフにとって勉強なるがとてもよい刺激にもなるので、今後も継続して実践して行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所からヘルパーの派遣をしてもらっている。何かの時にはお互い協力できるような体制で交流している。	○	グループホーム連絡会で情報交換を行っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常勤職員に関してはリフレッシュ休暇制度がある。他のスタッフに関しては個々に何か悩みはないか、不安はないか、管理者が聞くように時間を作っている。	○	ミーティングの中で報告する事によってストレスが半減する場合もある。今後も継続しておこなって行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月の3週目にグループホーム会議があり、4週目には全社会議があり、そこで状況を伝える事ができる。	○	個々のスタッフに関しては努力や実績を定期的に評価して行きたい。

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話だけではなく見学やご自宅・入院先にまで伺い、納得されるまで説明を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話やご見学時、いろいろと話をして下さる事が多い。また、こちらからも質問等で話しやすい状況を作っている。	○	何かあつ時は時間を作って頂き、話をしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ゆっくり話が出来るようにじかんを取り、何が一番良いかスタッフも一緒に考えている。	○	ご入居者様、ご家族様にこまめに声かけを行って一緒に考える時間を増やして行く。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居寺には特に気を使い、共同部分での座る場所や二階堂での1日の話をしている。その方が何が一番安寧なのかを見極め、スタッフに指導を行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人が喜ばれること又嫌がられることなど(その方)を理解するため様々な知恵を使い努力する。自分を受け入れていただけるか信頼関係がしっかり築けるよう努めている。	○	「もし自分をご利用者の立場だったら？」を念頭において良い関係を築いて行きやい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来ることは行って頂き、出来ないことは出来る限りして頂く。ご本人の好きな事、喜ばれる事を見つけ共に喜びを感じている。日常の会話から人生の先輩としての教訓を頂ける機会も多い。	○	ご利用者ご家族がこの施設で生活できて(安心)と思って頂けるように暖かく優しい心をもって接して行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様が来訪時にお話をしたり、急なときは電話で相談を行っている。	○	今後もご家族が来訪されたときはゆったりと話しが出来るよう配慮したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の記憶やご家族様からの聞き取りから行きたい場所や会いたい方を伺えるよう勤めている。	○	ご本人が行きたい所へ連れていってさしあげたいので、今後は人員を調整して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士の関係を把握し、食事やお茶の時間に遠慮なくくつろげる様な席の配置を考えている。職員が適所に入りコミュニケーションのバックアップに努めている外出時など参加メンバーも気が合う同士をなるべくまとめてお誘いしている。	○	散歩、行事等揃って参加できることを考えていく。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節の挨拶の手紙のやりとりや、毎年行われる追悼ミサのお知らせをお出ししている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の日々の生活リズムを把握し職員はなるべく本人の希望に添える様支援を行っている。出来るだけ自然な会話で本当の思いや希望を聞きだせるよう努めている。	○	対話の中から把握しようと努めている。時間があれば個々のファイルに目を通してはいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントではなるべく詳しくそれまでの生活歴を本人や家族にも伺っている。その後もご家族様来訪時などに、こちらからのホームの内容での情報も提供し相互にエピソードを語れるような関係を築く努力をしている。	○	ターミナルケアの際は、往診医師、訪問看護ステーションも含めてご家族様と相談を行っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の言動を良く観察して小さなことでもすぐに感じられる様努めている。(ADL・悩み・困っている事・嬉しいことなど)	○	今後も継続し実施して行きたい。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントやミーティングでの意見交換、本人家族の意向を取り入れたケアプランを作成している。	○	チーム全員でケアプラン作成に携わっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化の際は現状に即したケアプランを関係者と相談した上で作成して同意・捺印いただいている。場合によっては介護度区分変更の申請も行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「生活に記録」や「ケアノート」「連絡ノート」に気づいた事、伝えなければいけないことなど、各スタッフが記録を行い情報を共有し、参考にしている。	○	スタッフは記録を読み、ご入居者様の変化に対応して行きたい。



3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様の訪問や入居者様とご家族様が一緒に外出されるのに特に制限がない。夜にしかいられないご家族様にも対応を行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お話し相手の方のボランティア3名の方が各方面から定期的に訪問くださっている。また、第三者機関の方の訪問もある。その他地元のパワースタンドやフラワーセラピーなどの訪問も楽しみにして下さっている。消防署の協力も得て避難訓練を行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居問い合わせの電話の際に一度見学に来て下さるようお願いしている。また、グループホーム連絡会での他のホームの方との交流がある。		是非、お互い見学し交流を図って行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ協働はしていないが空室状況は情報交換をしている。	○	是非、お互い見学し交流を図って行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは訪問看護ステーションを通して24時間連絡がとれる体制になっている。緊急時は医師の指示で救急対応を行なっている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医が2週間に1回往診、個別に利用者との対話の中から診断、スタッフに支援の方法など指示をして下さる。	○	今後も継続し実施して行きたい。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護週1回利用者の全身の健康チェックと処置を行い、スタッフに適切なアドバイスを指示して下さる。	○	今後も継続し実施して行きたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中はこまめにお見舞いに伺い、病院のソーシャルワーカー、ご家族様と密に連絡をとって退院に向けての事前準備に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化についての文面が重要事項説明書に記載されて双方で確認を行なっている。重度化に向けて関係者と速雄段階から良く話し合いを重ねる必要がありケースバイケースで方針を決めている	○	ホームとして出来る範囲、あるいは出来ない範囲を明文化して行きたいと考えている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ること、出来ないことを説明し納得頂く。ご家族様のご要望をしっかりと受け止めホームとして出来る事を最善を尽くして介護支援サービスを行っている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームとしてはなるべく住み替えないで過ごして頂きたいと思っている。しかしどうしても転居の場合スムーズに行なえる様、ホームとして転居先へ最善の情報提供を行なう。	○	今後も継続し実施して行きたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の尊厳を傷つけるような馴れ馴れしい声かけはおこなっていない。記録等もプライバシーに配慮した記載やその取り扱いに気がつかっている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々ご状態に変化があるので、その時に最善に対応できるよう対応している。	○	今後も継続し実施して行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望に添うことは難しいが、出来る限りその方に合わせて時を過せるように努力している。	○	出来る限り希望に沿ったお手伝いをして行きたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者のご希望に添って理容室・美容室に連絡をとり送迎を行い満足して頂いている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲内で食事の片付けなどスタッフと行っている。盛り付け彩にも配慮して楽しい時間となるよう心がけている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人別メニューは出来ないが、全体的には個人の好みに合わせた献立を立てている。盛り付けや彩にも配慮し楽しい時間となるよう心がけている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来る限りその人の意思を尊重している。排泄の自立を高めるような支援をしている。また、排泄チェック表に記入し個々の排泄リズムを把握している。	○	自立の方の排泄状況がなかなか確認できないので、ご本人に確認開いたり、居室のトイレの音や掃除で把握を行って行きたい。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表を作成してご本人の希望に添いながら週2回、入浴を楽しめるよう声かけしている。	○	今後も継続し実施していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠用の道具や週間等に各人に合わせてリラックス出来るよう就寝いただいている。	○	今後も継続し実施していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方にあわせて掃除や後片付け、散歩、買物、外食、フラワーアレンジメントを行いケアプランで実施している。	○	今後はアセスメントを充実させいろいろと今まで見えなかった支援方法をスタッフ全員で見つけたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが自分でお小遣いをお持ちの方がいらっしゃる。外出時など好みに応じておやつやお土産購入をすることによって生活にはりを与えて頂いている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日散歩を含め外出に同行して頂いている。外出前にはご本人の意思確認を行なって、決して無理にはお誘いしていない。	○	今後も継続し実施して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様との外出はされているがご利用者様によっては、たADLや体調を考えると無理な事が出てきた。	×	車椅子の方が多いが陽気がよく体調の良い日には個別外出を検討していきたい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙のをポストへ投函している。	○	今後も継続して実施していきたく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過 せるよう工夫している	ご家族様が来訪された時、季節により冷茶・温茶をお出迎え してゆったりとお話できるよう配慮をおこなっている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定 基準における禁止の対象となる具体的な行 為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	重度化が進み転倒の高いご入居者様が多い。見守りやセン サーマット、呼びベルで対応を行なっている。	○	職員の介護技術や意識を高めていく研修や勉強会を行っ て行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関 に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を かけないケアに取り組んでいる	クロスハートは山に囲まれた住宅地内にあり道に迷ったら大 変危険である。防犯上の心配もありご家族様の了解を得て 門は電子鍵になっている	○	非常時には警報ベルを取り付けて鍵をかけない工夫も試 している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している	日中、夜間と居室にいらっしゃる時は、30分～60分毎に方 室し安全確認を行なっている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 組みをしている	裁縫道具などは本人の要望時にすぐに出せるように事務所 で預かっている。はさみなどを保持している方はその保管場 所をチェックをしている。	○	ご本人のプライドを傷つけないような声かけによって保管さ せてもらっている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じ た事故防止に取り組んでいる	法人の外部、内部の研修に参加したり、往診医・訪問看護師 にも指導を受けている。また、消防訓練時、消防隊員の方 にも指導を受けている。	○	今後も継続し実施して行きたい。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての 職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	訪問看護師より個別指導を受けているが応急手当ができる 職員は少ないと思われる。	○	研修として応急処置や救急対応の勉強会を定期的に行っ て行きたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の方に消防s訓練に参加頂いたり、運営推進会議でも自治会長、民生委員の方に協力をお願いしている。	○	地域全体の防災活動に参加して行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態の変化に伴い医療処置や転倒などのリスクがある事を説明し同意を得るように努力をしている。入居時も文章にて説明・同意・捺印を得ている。	○	今後も継続し実施していきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変を感じた際には、直ぐにバイタルチェックを行いホーム長、訪問看護ステーションに報告し、指示を受けている。	○	今後も継続し実施していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医、訪問看護の指導も有り、薬の勉強を行なっている。確実に飲み込まれるまで見守り、介助を行なっている。	○	スタッフ全員がご入居者様が服薬されている薬の内容を理解できるよう努めていきたいです。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要な利用者には排泄表で記録をつけている。便秘を防ぐ為に日頃より水分・乳製品・食物繊維の豊富な食材を心がけている。便秘時には、腹部マッサージなどを実施。それでもなお便秘が解消されなければ主治医の指示により整腸剤や下剤、坐薬を使用している。	○	オムツを使用されている方でも出来る限りトイレで排泄頂けるよう、介助を行ないたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ご自分で出来る方は声かけや見守りで行なって頂き、出来ない方に関してはスタッフが誘導し行なっている。また、週1回往診で歯科訪問がある。	○	今後も継続し実施していきたい。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時残摂取量を記録している。禁食のある人へは個別メニュー、嚥下困難への人へはミキサー食を手作りしている。食事時間は出来るだけ個別に対応できるようにしている。	○	今後も継続し実施して行く。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ご入居者様、職員が毎年インフルエンザの予防接種を受けている。日頃より気をつけて手洗い・うがいを行なっている。外出後は特に木を使っている。	○	今後も継続し実施していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	必ず手洗いし、食材の賞味期限の確認、調理器具等の消毒を行い衛生管理に気をつけている。	○	今後も継続し実施して行く。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内の植木の手入れは定期的に地元の専門家へ依頼している。近隣の要望にもなるべく応じトラブル回避に努めている。玄関周りの鉢植えや玄関内の生花もご来訪者、ご入居者様に好評である。	○	未だ反対ののぼり旗があるが周辺を少しでも心地よい空間に変えていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節の花や写真を飾って潤いのある空間を演出している。落ち着く空間でご入居者様やスタッフも穏やかに生活できている。	○	今後も継続し実施して行く。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングが離れており、気のあった方どおしでお話をされている。参加されない方は居室や他のソファで寛いでいらっしゃる。	○	気の合わない方もいらっしゃるので、出来る限りスタッフが間に入り橋渡しを行なっていく。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年慣れ親しんだ家具や思い出深い品々を配置する事によって落ち着いた安心感のある生活空間を、ご家族様の協力も得て実施している。	○	今後も継続し実施して行く。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎日必ず1度は喚起を行なう。冷房を設置できたことにより高齢のご入居者様に必要な温度管理が実現できている。</p>	○	<p>これから寒い時期になるが今まで使用できていた床暖房が騒音の問題で使用不可となってしまった。温風ヒーターなどで対応して行きたい。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室にトイレと洗面所が備わっているので安心感がある。また、共有部分に手すりが少ないので、個々に合った杖や歩行器を用いて活動されている。</p>	○	<p>今後も継続して実施して行きたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>個別対応で混乱を防ぐ努力をしている。カレンダーや新聞で日付を確認したり写真で記憶を記録したり必要な手助けで自立支援を行なっている。</p>	○	<p>職員側のリズムにならない様心がけて行きたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外回りの植栽の手入れは専門家に依頼し、玄関のプランターで花を職員と一緒に育てている。</p>	○	<p>今後も継続し、ご入居者様に四季を感じて頂きたい。</p>



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

居室には使い慣れた家具や生活用品を持ち込む事で安心感がある。ご入居者様の「できること・でいそうなこと」は先に介助せず見守ったり、一緒に行なうようにしている。咀嚼や嚥下困難など身体機能や排泄状態など一人お一人の健康状態に合わせた調理や盛り付けの工夫を行なっている。食事もスタッフと一緒に楽しい会話をしながら召し上がっていらっしゃる。